

速報 2:米沢市のおとづき商店を視察する。米沢牛のランドセルを開発して発売
町田市議会 無所属会派 吉田つとむ 2023. 07. 20 記



速報 2:町田市議会無所属会派は、米沢市の株式会社 おとづき商店を視察で訪れました。その株式会社 おとづき商店は、和装コートの製造販売を行う数少ない会社です。その株式会社 おとづき商店がランドセルを発売しました。地元産のブランド牛である米沢牛の皮が海外に安価で出されるか、あるいは廃棄処分されれているということから、もったいない精神で、その米沢牛の牛皮をなめし、牛革製高級ランドセルとして、企画発売〈2023. 02. 22 発表〉しています。2023. 07. 20

このスケジュールからすると、2023 年度（令和 6 年）の 1 年生を対象とした発売スケジュールになるものです。

（動画）米沢牛の牛革ランドセルを始めて造ったおとづき商店を訪れ、おとづき社長に会う 2023. 07. 19

https://youtu.be/Flsvj_gMHz4

米沢牛の牛革ランドセルを始めて造ったおとづき商店を訪れ、おとづき千恵子社長に会う 2023. 07. 19 新井議員がランドセルを紹介。町田市議会議員 吉田つとむの発見動画チャンネル

一般に国内で使用される牛革は、外国産牛皮だと聞きました。おとづき商店の弟月 千恵子社長は、米沢牛の皮をなめしてくれる会社を探し、ランドセル製造の会社と交渉して、製品化して、高島屋デパートより一般発売することをまとめ上げ、同デパートより、現在発売中となっています。



そもそも牛革カバンを名乗るには、60%以上の牛革を使用される必要（消費者序数値）があり、それ以下のものは、別の名称（おとづき商店製は、ハイブリッドモデルと称したもの）と、米沢牛革ランドセル プレミアルと名付けた製品（米沢牛革70%使用）があります。そのことは、飲み物でジュースと名乗るには果汁100%であることなどの例があります。



最近では、ランドセルに入れる中身が多くなり、小学生には重すぎるのが問題になっていますが、このランドセルをいかに軽くするかという点にも工夫が重ねられ、思っよりは遥かに軽いランドセルとなっていました。特に、ハイブリッドモデルは、スタンダードな牛革製と比べ、130グラム軽量になっているとのことでした。ブランド牛の牛革を使ったランドセルは、初めての企画となるものだというものでした。



<所感>

果たして売れるのか

デパート業界では商品企画に定評がある高島屋が発売することで、少々の値付けがされていても完売するのではないのでしょうか。私はデパート納入を主力とした卸会社（博多人形と言う工芸品）に長く務めたので、デパートとの取引は概ね理解しているものです。

デパートの花形は、外商部とバイヤーです。（適正なものを買付け、売れる見込みがある人物や会社を相手に販売する人材）

材料と製造過程に一流の企業が集まる

一流の材料を見極めるのは基本です。その意味では、米沢牛は一流の肉として定評があり、その皮革品があつて不思議が無いのですが、それを資源化しようという発想が無かつたのでしょうか。ただし、素材があつただけでは、その関連加工品ができるわけではなく、全く別物に仕立て上げる技量とその製作意図を汲んでくれる企業、人が必要で、あれを集める能力、オルガナイザーの人材が欠かせないと思いますが、それが株式会社 おとづき商店の弟月 千恵子社長であつたのでしょうか。

今日の時点で売れ過ぎを読む

ランドセル商戦は1年前の商売（もっと長い期間をかける）で、製品を企画する、素材を確保する、一流の加工（なめし）、部材のカットのスマートさ、そして軽さやかっこよさが大事で、最終購入者が店頭見本で購入予約をすることがあると思います。もとより、一般的な販売は店頭に出して見て、現物を販売するのが一般的なのですが、どのような販売方法であれ、予定した量、数を販売しきることが必要で、トレンドをつかむ能力が欠かせないのでしょう。

（続報予定）→（注）報告書として提出した文書が続報です。